

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900309		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家醍醐(1)		
所在地	京都府京都市伏見区醍醐新町裏町5-1		
自己評価作成日	平成31年2月18日	評価結果市町村受理日	令和元年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690900309-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に穏やかに過ぎて頂けるよう、日々職員間で意見交換を行ない、施設での一日の流れにとらわれる事の無いよう、入居者様一人一人に寄り添った一日の過ごし方を尊重し、ケアに取り組んでいます。また、入居者様が楽しく活気のある生活を過ごして頂けるよう、レクリエーションに力を入れています。日々のレクリエーションだけではなく、イベントで全体での外出レクリエーションも行いました。日々の外出も入居者様の希望に添い、散歩や買い物など外出する機会を多く設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は日々の関わりの中で利用者にとって楽しいことを見つけ出来る様に取り組み、その為に出来る事や役割を持つこと、外出の機会を多く作りながら今の状況が維持出来る様に一人ひとりに合わせた支援を考えています。また、運営推進会議では家族からも多くの質問やアドバイスがあり、その意見の中から利用者へ教えてもらいながら作るぬか漬けや夏には線香花火をする等楽しめる行事に繋げています。家族に声をかけ利用者全員で紅葉狩りに出かける等楽しむ機会を作り家族との関係も大切にしています。医療面では往診医や看護師との関係も良好で職員と情報を共有し健康管理を行い、研修を行い終末期の関わりについても学び可能な限り寄り添い希望に添えるような支援を心がけて看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が一つの目標に向かえるよう努めております。その中で各フロアで理念を掲げ共有しております。	法人理念を基に作られた事業所独自の理念と利用者に合わせフロア毎に考えた目標を職員が目につく場所に大きく掲示して意識できるようにしています。入職時には理念に込められている思いや大切さを説明しており、フロア会議においても理念や目標について話し合い日々の支援を通して実践に繋げるような取り組みをしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧板の情報を確認し、地域の行事に出来るだけ参加しております。	回覧板で地域の情報を得て地蔵盆や地域の避難訓練に利用者と一緒に参加しています。事業所で行われる夏祭りではバザーや模擬店も出し地域の方に案内をし多数参加が得られ、近隣の保育園児も歌の披露に来所してもらい交流しています。地域の方とも顔見知りになり挨拶を交わすなど地域との関わりが深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント等を開催時地域の方々に参加して頂く機会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た参加者の方々の意見を職員会議で議題に上げ、サービス向上に努めています。	会議は家族や利用者、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1度開催し、事業所の現状や活動、事故報告や職員状況及び研修実施等の報告後、意見交換をしています。事故や備蓄、調理等に対する質問やアドバイスも多くあります。利用者と一緒に出来る体験や外出場所の提案もあり現在企画を行っています。	会議に地域の方に参加してもらえるよう民生委員や町内会等にも案内してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会に参加はしてはしておりますが、日頃からの密な連絡を取るまでには至っておりません。	区役所へは事故報告や介護保険更新時には直接窓口に出向いたり、わからないことがあれば電話で聞いています。また、毎月行われる事業所連絡会には区の担当者の出席もあり意見交換やアドバイスをもらう機会もあり、出来るだけ参加できるように調整をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一回身体拘束適正化委員会を開催し、家族様等の意見を聴き取り、安心して頂けるよう努めております。	身体拘束について法人で年に1回研修があり、参加した職員による研修で全員が学び、言葉による拘束についても会議で話し合い職員同志での注意をしよう事もあります。また、身体拘束適正化委員会の内容を職員にも周知しセンサーマットについても使用方法によっては拘束に当たることも説明し毎月外す方向で話し合いを行っています。フロアの入り口は施錠していますが外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添い外気浴や散歩に出る等の支援をしています。	

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止研修を行ない、虐待の知識や事前防止を知識を学び、また職員で話し合いの場を設けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の研修に含まれており、必要に応じて提案させて頂き活用させて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行ない、理解と納得頂けるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議中の家族様意見の聴き取り。家族様来訪時に意見を頂き、会議等で職員に報告し、日々の要望にお応えできるように努めています。	毎月の便りで利用者の様子を伝えたり、些細な変化などがあれば電話で報告し、面会時には直接意見を聞いています。得られた意見の中で洗濯物の間違いを防ぐために個々のネットを使用したり電球を落ち着いた色に変える等出来る事から改善をしています。利用者の意見は日々業務の中で行きたい場所や食べたいもの、興味のあるもの等を聞き個別の対応を行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見・要望を聴き取り、話し合いの場を設けております。	毎月行われるフロア会議や全体会議の他、日々の業務内でも職員の意見や提案を聞いています。レクリエーションの企画や物品の購入など話し合い職員間で検討したり、各フロアの利用者に合わせたレクリエーションが充実するように考えています。悩みを抱えている職員には随時面談を行い働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々環境整備には努めておりますが、人員不足・入居者様の重度化により、環境や条件は不十分だと感じております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修を行なっております。またフォローアップ研修も実施しております。外部の研修の参加斡旋は実施出来ておりません。		

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内にて研修等行なっております。その中で他事業所職員とのグループワーク等で交流しております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様からの聴き取りで、不安なこと要望等を確認し、職員で共有し本人様のニーズにお応えできるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望等を聴き取り、職員で共有し、安心して頂けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の要望、家族様の要望を聴き取り、必要に応じて提案させて頂き、サービスの提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には積極的にお手伝い等を依頼し、出来る事はして頂いたり、相談してりと支えあえるような関係性の構築に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の絆を大切に、以前と変わらないような関係性を維持できるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの人、場所を大切に出来るよう、自宅が施設付近の方には、本人様と散歩に出かけたりしております。	家族以外にも友人や知人等の馴染みの人の来訪があり、居室や相談室等過ごしやすい所を選んでもらい、お茶を出したり椅子を準備する等ゆつくりと過ごせるよう支援しています。家族の協力の下墓参りや法事に出かける方もおり、その際には準備などの支援を行っています。年賀状の代筆も希望があれば行い今までの馴染みの関係が途切れないように支援を行っています。	

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でお話をされたり、職員が入居者様同士の間に入り、関係を持てるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベント等の案内をさせて頂き関係を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様への聴き取りや日々の行動言動等で思いをくみ取り本人様の疎黄に添えるよう努めております。	入居前に自宅や病院、施設などに出向き面談して本人や家族の希望、日常生活状況等を聞き取り所定の様式に記載し、今まで関わっていた事業所等からも情報を得て思いの把握に繋げています。入居後は思いをくみ取れるように関わり本人の言葉や表情等些細なことも記載しフロア会議で集約し職員間で共有できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント実施時に本人様への聴き取りと家族様、ケアマネ様等にも聴き取りを行ない、情報の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様に対しての日々の過ごし方で気づきを職員で共有し、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の日々の過ごし方、変化を把握し、家族様等に報告相談を行ない、現状に即した介護計画作成に努めております。	本人や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し、見直しは初回は3か月、以降は利用者の状況に変化がなければ6か月毎に行い、再アセスメントとモニタリング、評価を行いサービス担当者会議を開催し、本人や家族、医師や看護師の意見を改めて聞いています。3月より職員が参加する計画担当者会議を立ち上げ居室担当を決めることでより計画を意識した支援に繋がれるように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月、必要時に応じてモニタリングを行ない、職員で話し合い必要な事、新たな課題を見つけ、見直し実践しております。		

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様に必要なことを日々の行動や言動で感じ取り、サービスに取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様のADLに応じてですが、家事のお手伝い等出来る事を無理なく、強制せずにして頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望に添った医療機関への受診を優先しており、医療機関と連携し、安心した医療を受けられるよう努めております。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが、現在は全利用者が協力医を選択し月2回の往診を受けています。緊急時には24時間連絡が取れ場合によっては往診もあります。専門医への受診は家族が同行していますが重度の方の送迎を行うこともあります。訪問看護師による健康管理は週に1回あり状況に応じて協力医に連絡し連携が取れています。歯科や訪問マッサージもあり希望者は治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との情報共有を行ない、安心して受診や看護を受けて頂けるよう努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に情報提供、本人様の状態を把握し、適切な対応に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明を行ないます。また本人様の状態の応じて再度説明等行ないます。	入居時に重度化の対応・終末期ケア対応に係る指針を基に説明を行い同意を得ています。状況により医師と相談し家族に意向を再確認後、家族を含め医師や訪問看護師、事業所で話し合いを重ね今後の方針を決めています。家族の協力を得ながら看取りの経験もあり、可能な限り希望に添えるような支援に取り組んでいます。定期的に看取りの研修も行っていますが、訪問看護師にも依頼し研修を行うこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時し備え、研修を行なっています。各フロアに急変時の対応、事故時の対応のフローを掲示しております。		

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応を掲示し、年二回の防災訓練も実施し、災害時に対応できるよう努めております。	消防訓練は年に2回消防署の立会いの下昼夜を想定して通報や避難誘導、水消火器を使った消火訓練を利用者と共に行っています。災害発生時に対応や連絡方法、備蓄や備品の見直し等も行っています。次回より地域の消防団にも訓練の参加を依頼し、また地域の防災訓練にも参加しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方、トーン、状況に応じた話し方等を心がけて対応しております。	接遇や尊厳、プライバシーに関する研修を行い、利用者には丁寧な言葉遣いを基本として尊厳をもって本人が分かりやすい声掛けをするように指導しています。不適切な対応があれば管理者や職員同志でも注意をしています。排泄時に介助が必要な利用者には羞恥心等に細心の注意を払い希望があれば同性介助等の対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望等には、意思の確認を行ない、自己決定して頂けるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望を優先し、本人様のペースで日々過ごして頂ける様努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望を聴き、季節に応じた衣類を選択できるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクの際は入居者様に選んで頂いたり、食事を楽しんで頂けるよう努めております。	業者より献立に合わせて食材とレシピが届き、利用者は食事の準備や野菜の下ごしらえなど出来ることに携わってもらい食事を作っています。食卓では職員も同じテーブルで見守りながら一緒に食事を摂っています。月に1回昼食は業者の食事を止めて利用者の希望も聞き鍋料理やお好み焼きを作ったり、寿司や中華などをテイクアウトしています。季節に合わせた特別食や手作りおやつ、個別外食等で食事を楽しむ機会も設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の観察で、医療機関とも相談し、本人様に合った食事量等を提供し、本人様の負担にならない支援に努めております。		

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの促し介助を行なっております。希望者・必要な方には週一回の訪問歯科も取り入れております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリング等職員と情報共有を行ない、本人様に合った間隔でトイレの誘導声かけ等行なっております。	排泄の記録を基にパターンを把握したりこれまでの生活歴の確認を行うなど、一人ひとりのリズムに合わせて声かけや誘導をすることで失敗も少なくなり紙パンツから布の下着で過ごせようになった方もいます。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいます。日々職員は排泄用品の種類や支援方法を検討し、情報を共有する事で自立に向かうように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた、運動の働きかけ、水分の促しを行ない便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はフロアで決まっておりますが、回数や時間帯は出来る範囲で本人様の希望に添えるよう努めております。	入浴は週2回を目途に日中に入ってもらい、回数を増やしたり、夜間帯の入浴については要望があれば体制を整え検討するようにしています。脱衣室は温度計を設置し浴室との温度差にも配慮しています。一人ずつ湯を入れ替えゆっくりとコミュニケーションを図りながら入ってもらい、本人専用のシャンプーや石鹸を使い好きな湯の温度で入浴できるように支援しています。拒否される方には時間や声をかける人を変える等、無理のない入浴に繋がります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の二尾の状態を観察し、必要な休息を促したり、希望に添って休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時等がある際は、申し送り等で注意点、目的を共有し、職員が理解して経過の観察が出来るよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に活気が出るよう、本人様に役割を持って頂き、又趣味等は継続できるよう努めております。		

グループホームたのしい家醍醐(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある方は、職員の買い出し等と同行して頂いたり、場所なども配慮して外出の機会を設けられるように努めております。	天候と体調に合わせて少人数で散歩や買い物、喫茶店に出かけたり、菜園の野菜を見に行ったりベンチで外気浴をするなど外気に触れる機会を作っています。初詣や梅や桜等の花見、家族も誘って紅葉狩りなど季節を感じられる外出行事をしています。イベントとして鉄道博物館に家族を誘って出かけられるように企画をしたり、個別の希望を叶える外出支援にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が希望されている際は、家族様に了承を取り、お金を所持して頂いておりますが、トラブルを避ける為、出来るだけ施設で金銭の管理をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、希望に添った支援をさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が居心地良く過ごして頂けるよう配慮し、季節やイベントに合わせた飾り付けや模様替えをさせて頂いております。	共用空間は毎日の換気や清掃を行い清潔が保てるよう心掛け、空気清浄機や加湿器を設置し温度調節にも配慮しています。ユニット毎に季節に合わせた飾りつけや作品、行事の写真が飾られ季節感のある雰囲気となっています。テーブルやソファの配置を変え利用者の生活状況に合わせて、心地よい空間になるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人一人のペースで過ごして頂けるよう職員から何かを強制する事は無く、思い思い過ごして頂ける様努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライベート空間とし、家族様と相談しながら、本人様が過ごしやすいように工夫しております。	居室は明るく、整頓され毎日の換気や定期的な清掃を行っています。自宅での生活習慣に合わせ、ベッドか布団かを選択することも可能です。使い慣れた筆筒や鏡台、テレビや趣味の将棋や編み物の道具、家族の写真等を持ち込み家族と相談しながら配置し、利用者の過ごしやすい居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望者にはフロアから出て頂いておりますが、安全面から基本的にフロア外は職員と同行させて頂いております。		